（様式１）

整理番号	1	－	1	－	2	1	9	※

平成２１年度「大学教育・学生支援推進事業」
学生支援推進プログラム及び就職支援推進プログラム
【自己点検報告書】

１．連絡先等

プログラム区分	学生支援推進プログラム・ 就職支援推進プログラム	いずれかに「○」を付してください。
大学・短期大学・高等専門学校名	大阪樟蔭女子大学	
所　在　地	〒577－8550　大阪府東大阪市菱屋西 4-2-26	
設 置 者 名	学校法人 樟蔭学園	
学長等の氏名	徳永　正直	

取 組 期 間	平成 21 年度　～　23 年度　（3 年間）
取組名称（全角３０字以内）	SHOINしごとナビ－「出口」からの視点による学生支援強化－

申請区分	単独	※　単独・共同　のうちいずれかを記入してください
共同申請の場合の共同先の大学等名		

（取組担当者）

ふ り が な	たなか きよと	所属部署名及び職名	キャリアセンター長/心理学部 ビジネス心理学科 教授
担 当 者 氏 名	田中　清人		
電 話 番 号	(勤務先)0745-71-3137	(直通番号等)	
ＦＡＸ番号	0745-71-3142		
e-mail アドレス	tanaka.kiyoto@osaka-shoin.ac.jp		

（事務担当者）

ふ り が な	よしだ としゆき	所属部署名及び職名	キャリアセンター 統括課長
担 当 者 氏 名	吉田　敏之		
電 話 番 号	(勤務先)06-6723-8184	(直通番号等)	
ＦＡＸ番号	06-6723-8348		
e-mail アドレス	syushoku@osaka-shoin.ac.jp		

（様式２）

平成２１年度「大学教育・学生支援推進事業」
学生支援推進プログラム及び就職支援推進プログラム
【 自己点検報告書 】

２．自己点検評価の内容

① プログラムの目的及び内容

本取組では、大学における自身の目の前の「学び」が社会の様々な場面でどのように活かされているのかを、幅広い現場の生の声として学生に具体的に示していく。それを通して学生が自ら能動的に、目標とする卒業後の進路に向けた学習・行動意欲の向上につなげることを目的とする。更に学生向けの情報を各教員とも共有化し、学生指導に役立てるきめ細かな支援体制を構築する。

② 到達目標

本学においても近年、進路希望が漠然としたまま就職活動に入る学生の増加が顕著である。そのため、活動範囲や期間が限られ折角の機会を逸する、または就職しても早期に離職するミスマッチの事例等が生じている。「SHOIN しごとナビ」による情報提供を通して、就きたい仕事や憧れとする社会人など進路目標をしっかりと持つ学生を一人でも多く育成することを目標とする。

③ プログラムの実施内容

本取組の基盤的ツールとなる「SHOIN しごとナビ」を大学 HP 内に設け、進路に係る様々な情報を学生に提供する。その内容は、①学生が本学での「学び」を活かして頑張れる幅広い就職先リスト、②実際の仕事内容、求人状況③卒業生の活躍状況や後輩学生へのメッセージ等、現場の生の声を業種・職種別にデータベース化した情報を中心とする。また、キャリアセンター参与による企業訪問を実施して、データベースの内容について充実を図る。さらには、厳しい就職環境の中で内定を容易に得られない大学４回生向けの個別支援強化、就職活動を行う学生の就職におけるミスマッチを防ぐ為、キャリアカウンセラーを配置する。

④ プログラムの成果

1）当該プログラムの周知方法等

学内では、どのような方法で周知徹底したのか。

・学生に対しては、3年次始めからの「進路・就職ガイダンス」、及び各学科ゼミでのガイダンスにおいて、複数回「SHOINしごとナビ」の説明を行い、その利用方法と活用方法について周知徹底を行った。

・教員に対しては、教員用のID・パスワードを発行し、教授会を通じて「SHOINしごとナビ」の資料を配付、求人情報や企業情報検索ができる環境を整え、学生が活用している旨を周知し、進路指導に役立ててもらう。

2）当該プログラムの成果

① 自己評価は、どのような観点で行ったか。

当該プログラムにより、学生はインターネットを通じて学外からも、大学に到着する求人情報や企業情報、各種就職活動支援情報等を一早く得ることができる環境を整備した。その中で、学生が「SHOIN しごとナビ」をどのように活用していたかのアクセスログを検証し、求人数や学生の利用状況から、就職活動にどのような影響を与えたのかという観点を踏まえ、自己評価を行った。

② 到達目標に達したか。

「SHOINしごとナビ」による情報提供を通じて、就きたい仕事や憧れとする社会人等、進路目標をしっかり持つ学生を一人でも多く育成することを目標に、当該プログラムを実施した。

「SHOINしごとナビ」情報の中心となる求人情報（昨年の12月26日現在）については、平成23年度の4回生向け学校求人情報として1,869件（4回生向け）、378件（3回生向け）を掲載している。さらに、掲載した求人情報に対する学生の活用状況については、平成22年10月～平成23年12月の求人票検索件数が33,000件、検索学生人数が347名という状況であった。現大学4回生の在籍数は591名であり、就職希望率を80%とすると、就職希望者は在籍591名×80%で473名となり、就職希望者の74%の学生が「SHOINしごとナビ」を利用したことになる。なお、企業情報については18,961件（平成23年12月26日現在）を登録している（詳細は別紙資料を参照）。

求人情報と並んで、キャリアセンター参与による企業訪問記録の掲載についても、平成22年度より開始したが、平成22年10月～平成23年12月の訪問記録検索件数は5,971件、検索した学生数は240名にのぼる。

利用している学生からは「学外からインターネットを通じて、求人情報や企業情報を閲覧できるようになったことで効率的に就職活動を行うことができるようになった。」という声や「企業訪問記録には、採用試験の情報だけでなく、仕事内容や会社の雰囲気も盛り込まれており、採用試験を受験するに当たって、会社に対するイメージしやすい。」といった感想が聞かれた。

また、「SHOIN しごとナビ」では、卒業生の活躍状況や後輩学生へのメッセ

ージを「しごと・インタビュー」という形で情報を発信し、情報を閲覧した学生が進路目標を持つことができるような環境を整えた結果、閲覧した学生が就職活動に向けて、卒業生との情報交換を図る等の成果を上げることができた。今後は、情報を閲覧する学生からのヒアリングを通じて、より学生に有益な情報が提供できるようなシステム作りを検討していく。

キャリアカウンセラーの配置については、進路目標が明確に持てない・内定を容易に得られない大学4回生の支援、就職活動を始める大学3回生への面談を中心に行った。学生からは、「就職活動を前向きに考えるきっかけとなった。」、「学生の自己分析を行うサポート役として、学生のエピソードや強みを引き出すことができた。」、「就職活動に対する不安・悩みの解消に繋がった。」等の声が聞かれ、学生の進路・就職支援に対して、一定の成果が出ている。

③ 具体的な成果は何か。

当該プログラムの成果としては、次の内容が挙げられる。

(1) 従来、学生が大学に届く求人情報や企業情報については、直接大学（キャリアセンター）内で把握する以外に手段が無かった。さらに、就職環境が厳しい状況下で、より学生が効率的に就職活動を進めることができる環境を整えることが急務であった。当該プログラムの実施により、インターネットを通じて学外からも求人情報や企業情報等、就職活動に有益な情報を得ることができる環境が整備された。その結果、平成21年10月～平成22年12月及び平成22年10月～平成23年12月の求人検索を行った学生数を比較すると、就職希望者の7割以上の学生が求人検索の機能を利用して就職活動を行っていることが判明した（詳細は別紙資料参照）。

(2) キャリアセンター参与による企業訪問活動では、企業情報の収集・求人票の獲得を目的とした活動を実施した。その結果3年間の実績として1,458社の企業を訪問（平成21年9月～平成23年12月現在）して、649件（平成23年12月現在）の求人票を受領した。また訪問先の求人で89件（平成23年12月現在）の内定件数が報告されている（詳細は別紙資料参照）。

(3) キャリアカウンセラーの配置については、平成22年度より「全予約制」でキャリアカウンセラーを招き、定期的にカウンセリングを実施した。

特に平成23年度は22年度に比べ、キャリアカウンセラーの来校日を増やし、学生に対してきめ細やかなサポートができる体制を強化した。その結果、カウンセリングを受けた学生数は平成22年度・大学3回生が452件、大学4回生が178件であり、平成23年度・大学3回生が506件、大学4回生は196件（平成23年12月現在）となっている（詳細は別紙資料参照）。

※評価の観点に則した客観的な資料を添付

⑤ 今後の計画

1）当該プログラムの成果をどのように活用していくか。

・「SHOIN しごとナビ」について、今後はキャリアセンターからの情報配信に止まらず学生が有効に情報を活用できるよう、学生との双方向での情報交換が可能なシステム作りを検討する。

・キャリアセンター参与の「企業訪問活動」による重要企業の情報データベースを活用した、本学学生の就職先となりうる企業との関係強化していく。

・当該プログラムの導入の中で開始された、キャリアカウンセラーによる支援は、就職活動中の学生にとって、就職活動中の悩みや不安を解消して、就職活動を前向きに考えるきっかけになっている。事業終了後も引き続き、キャリアカウンセラー相談日を設置し、学生に対する支援体制を強化していく。

2）今後の計画

・学生との双方向での情報交換が可能なシステムとして、学生からの支援行事参加予約、進路希望登録、進路決定報告や OG 情報の検索、応募書類や各種提出書類のやり取り、さらに学生自身で就職活動を記録し、キャリアセンターが活動状況も随時データ把握できるシステムの導入。

・重点企業の訪問活動強化を通じて、求人獲得のみならず、個々の募集企業の学内説明会の実施、本学学際分野との産学連携による企業との共同研究や共同開発の促進。

・キャリアカウンセラーの配置に係る新たな支援策として、就職活動に不安や行き詰まる大学 4 回生を対象に、毎月週 2 回のキャリアカウンセラー相談日と 3 回生就職希望者全員への相談日の設定。

⑥ 就職未内定者への支援策

1）内定（内々定）のピークを過ぎても内定（内々定）を得られない者への支援策

キャリアカウンセラーによる未内定者の個別相談の機会を設定。また、キャリアセンター参与による求人開拓、開拓により獲得した個別の求人斡旋を実施している。さらにハローワークと連携して、学内登録会、ハローワーク利用案内ツアーの実施、ジョブサポーターによる出張相談会を実施している。学内での個別企業説明会（選考を含む）等、学生が就職活動を継続できる支援策を実施している。

2）未内定のまま卒業した者への支援策

卒業時点でキャリアセンターからの就職斡旋を希望する学生に対しての既卒向け求人のメール配信による就職先の斡旋、卒業生向けに「SHOIN しごとナビ」の公開、卒業生の為に休日のキャリアセンターの開局等、卒業後も継続的に支援を行っている。

Ⅰ　「SHOIN しごとナビ」の概要と活用状況

1.「SHOIN しごとナビ」の概要

本学の就職関係のシステムとして、企業の情報を管理する「進路支援システム」があり、企業情報や求人票が登録されている。「ＳＨＯＩＮしごとナビ」は、「進路支援システム」の求人票を検索、閲覧でき、また「ＳＨＯＩＮしごとナビ」に登録されている企業訪問記録を検索、閲覧できるシステムである。

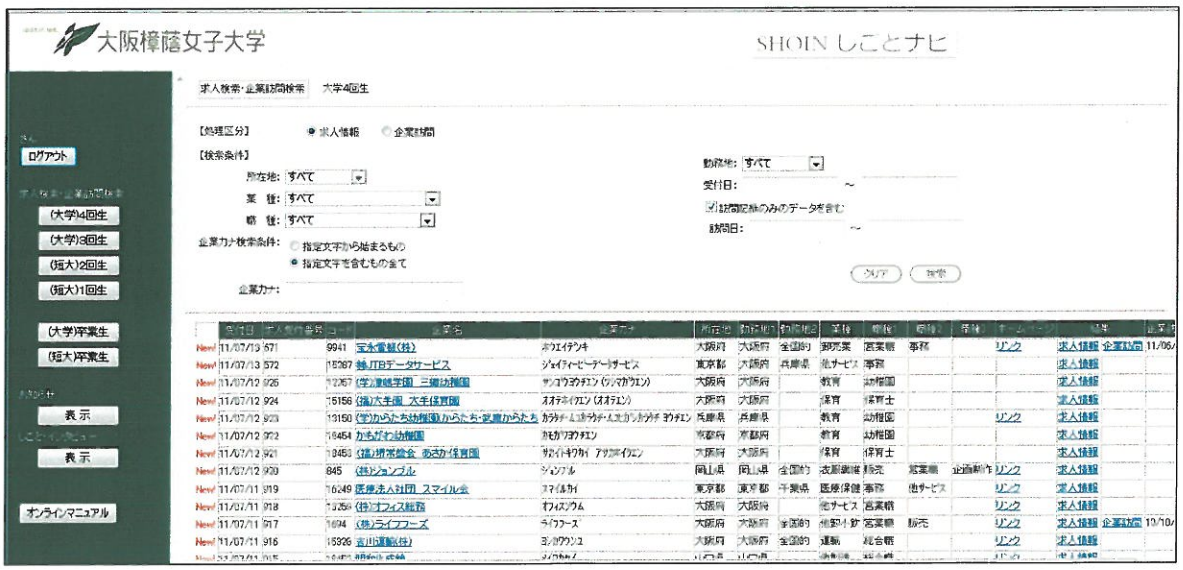
（1）求人票の検索

学校に届いた求人票やＪ－ＮＥＴ等からの求人票は、キャリアセンターで登録され、年度ごとに蓄積される。学生は、学内または自宅から検索でき、業種や職種、企業名を入力し条件検索も行える。また、企業がホームページを公開している場合は、検索の画面からそのホームページにリンクすることも可能である。

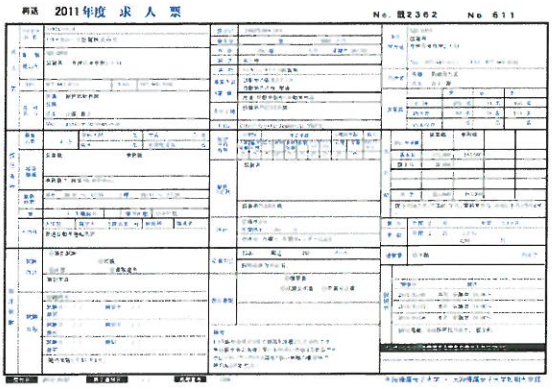
（2）企業訪問記録の閲覧

訪問担当者が企業を訪問し、本学の学生の就職にとって必要な企業については、企業訪問記録を記載し、「ＳＨＯＩＮしごとナビ」に掲載される。

企業訪問記録は、企業名、採用担当者を初めとして採用職種、試験内容、会社の労働条件や雰囲気、人事担当者のコメント（求める人材など）、訪問者意見、今年度採用状況、追加募集等の項目があり、採用の有無を含めて、学生へいろいろな企業を紹介しているので学生の企業の理解に役立つ。特に「会社の雰囲気、人事担当者のコメント、訪問者意見」は、就職サイトで公開される男子学生と女子学生共通の公的な情報とは異なり、社会経験豊かな担当者が訪問しての女子学生用の生の情報で、その企業を受験するしないに関わらず、学生の就職活動にとって有益な情報と思われる。



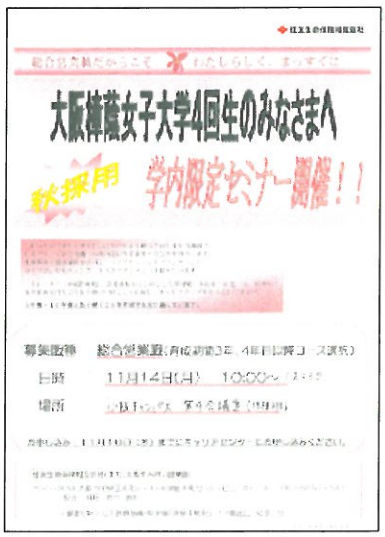
＜求人票と企業訪問記録＞

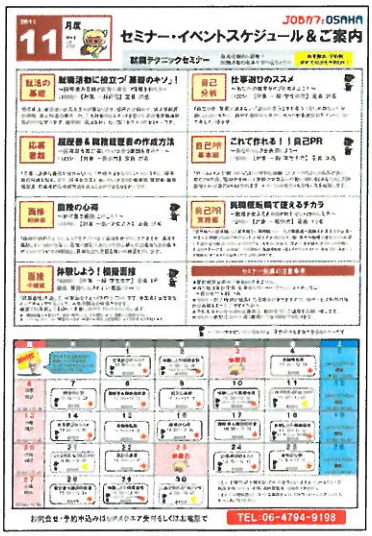


（３）「お知らせ」情報の閲覧

就職活動ガイダンスや各種支援講座などのキャリアセンター関連の行事や合同説明会の案内、Ｕターン求人や公務員採用試験などの情報、履歴書の書き方など就職活動に関する知識などを掲載している。学生が必要な時に必要な情報を閲覧することが可能で就職活動に役立たせることができる。

＜「お知らせ」の内容＞

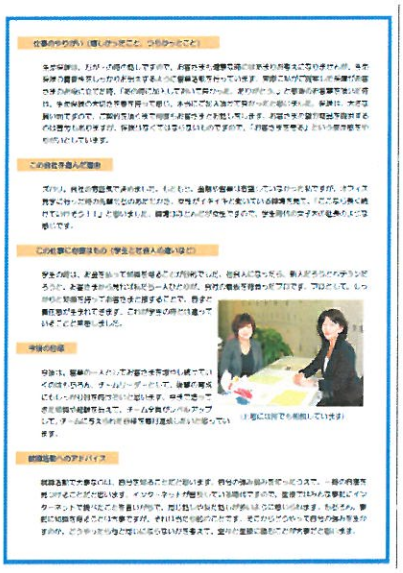




（４）「しごと・インタビュー」記事の閲覧

「しごと・インタビュー」は、本学のＯＧを中心に社会で活躍する女性に、その具体的な仕事の内容をインタビューし掲載しており、学生が閲覧できる。キャリア教育の一環として勤労観、職業観を身に付け就業意欲の向上を図ることを目的とする。記事の内容は、会社概要、仕事の内容、仕事の流れ、仕事のやりがい、必要なスキル、就職活動へのアドバイスなどである。

＜「しごと・インタビュー」の内容＞



２．「ＳＨＯＩＮしごとナビ」の活用状況

（１）求人票と企業訪問記録の登録

「進路支援システム」に登録されている情報、件数は次の通りである。

企業情報		１８，９６１件
求人票	４回生	１，８６９件
	３回生	３７８件
企業訪問記録		７５２件　（平成２３年１２月２６日現在）

（２）求人票の検索状況

①４回生の月別検索状況

現４回生の就職活動が始まった平成２２年１０月からの求人票の検索件数及び検索学生人数は次の通りである。

求人票検索件数　平成２２年１０月～平成２３年１２月　３３，０００件
検索学生人数　　平成２２年１０月～平成２３年１２月　　３４７名

また、昨年度の平成２３年３月の大学の卒業者の同時期の検索件数及び検索学生人数は次の通りである。

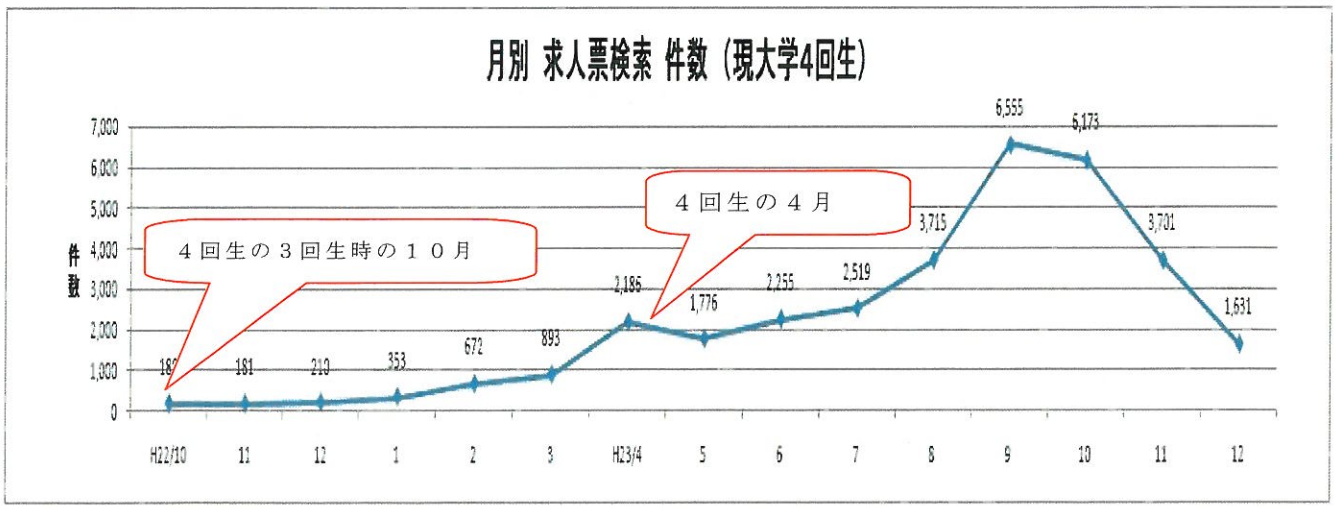
求人票検索件数　平成２１年１０月～平成２２年１２月　４１，４３６件
検索学生人数　　平成２１年１０月～平成２２年１２月　　４２６名

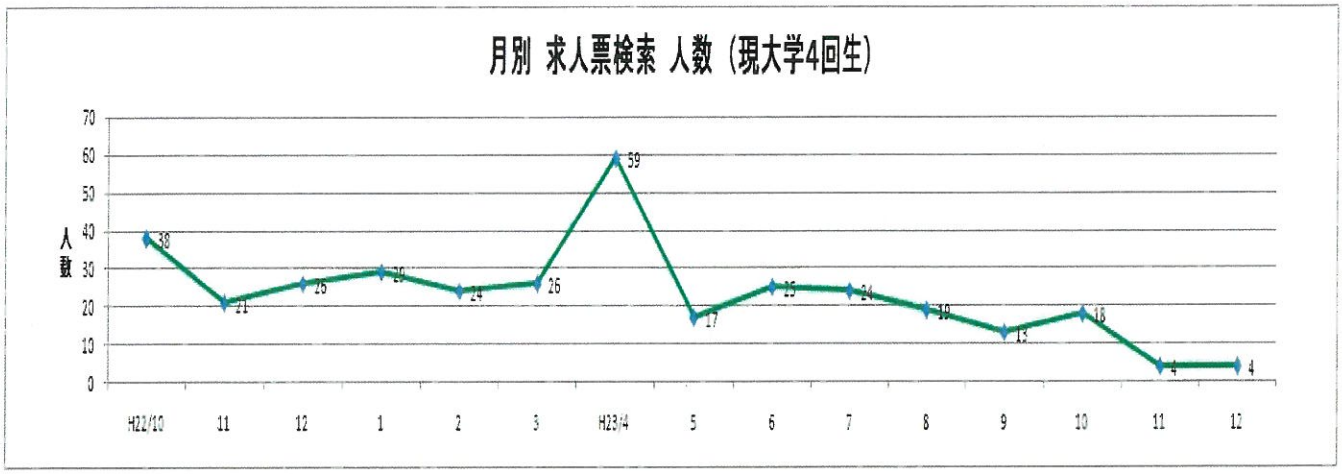
現４回生で、検索件数が一番多い月は、次の推移グラフの通り平成２３年９月で６，５５５件である。保育系は４回生の１０月から求人が多くなり本格的な就職活動が始まることが多いので、この結果になったと思われる。児童学科が検索件数、検索学生人数が一番多い。

現４回生の在籍数は５９１名で、就職希望者率を８０％とすると、就職希望者は在籍５９１名×８０％で４７３名となり、就職希望者の７４％の学生が求人票を検索したことになる。昨年度はこの比率は８３％であり今年度は下がっている。

キャリアセンターからの学生への告知の徹底も必要であり、また「ＳＨＯＩＮしごとナビ」のデータが増加し検索のためのアクセスタイムもかかるようになり検索をしなくなってきている事も考えられるので、ハードウェアの更新も必要と思われる。求人票検索で、検索件数は学生が同一企業を検索した場合、最初に検索した月に件数を加算し、学生人数は最初に検索した月の人数を合計している。従って人数のグラフでは、最初に検索した月に人数が加算されるので右下がりになる。

（平成２３年１２月２６日現在）



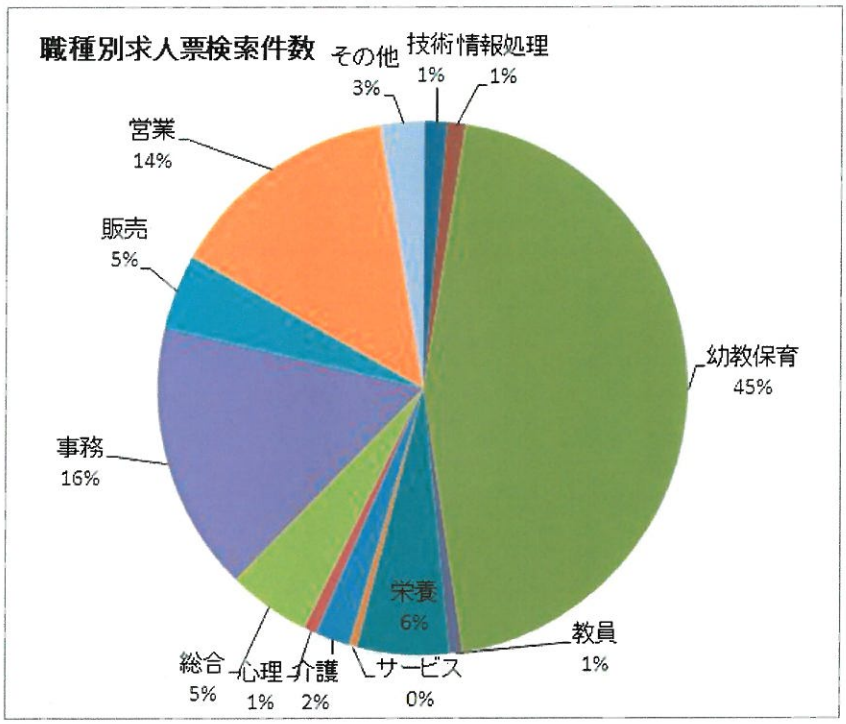


②４回生の職種別検索状況

現４回生の職種別の検索比率は次の通りである。幼稚園教諭及び保育士関係が４５％と一番多い。営業と販売が合計で１９％、事務が１６％と続いている。

（但し、求人データには職種欄が３欄あるが集計は第一欄のみで行った。）

（平成２３年１２月２６日現在）



（３）企業訪問記録の検索状況

企業訪問記録の検索件数、検索学生人数移は次の通りである。

訪問記録検索件数	平成２２年１０月～平成２３年１２月	５，５９２件
検索学生人数	平成２２年１０月～平成２３年１２月	２４０名

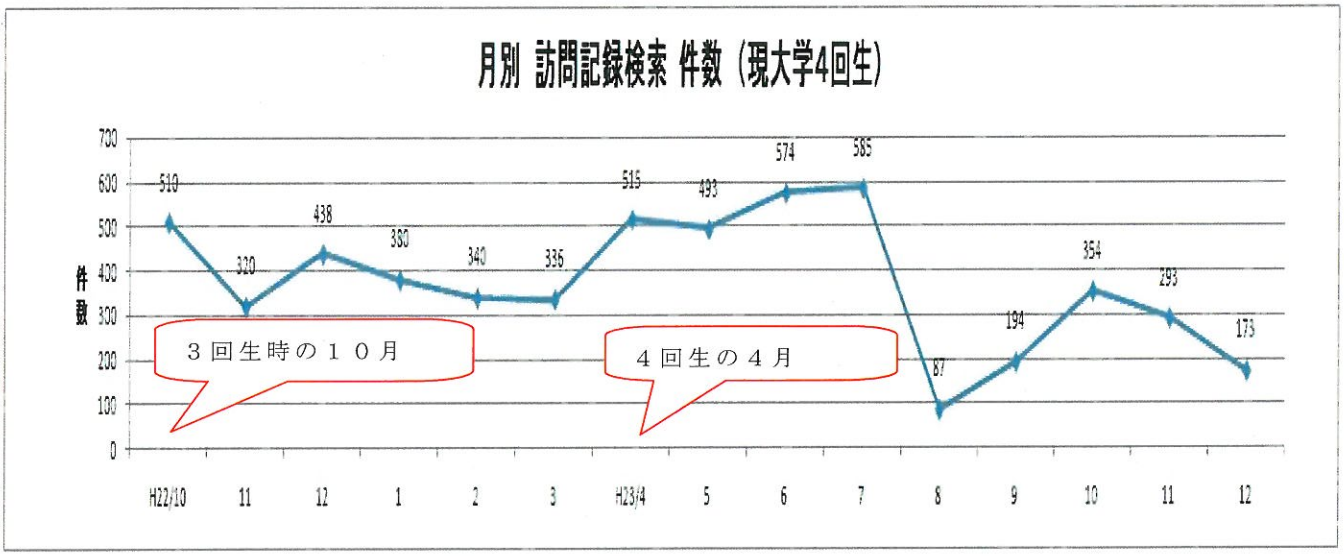
また、昨年度の平成２３年３月の大学の卒業者の同時期の検索件数及び検索学生

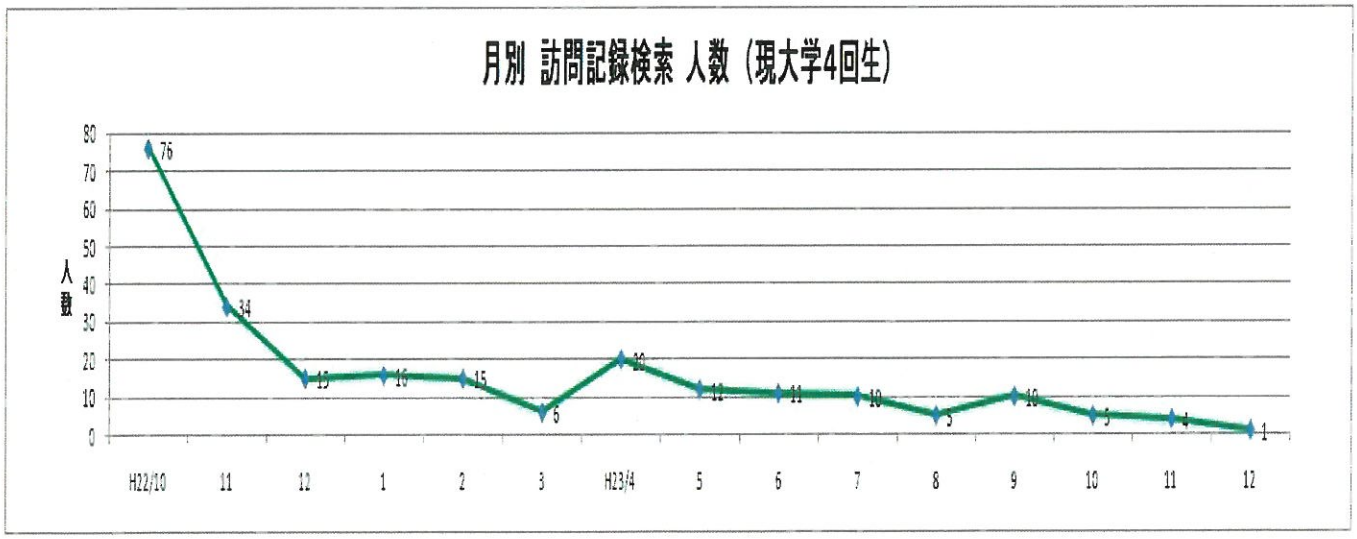
人数は次の通りである。但し、企業訪問記録の「ＳＨＯＩＮしごとナビ」への掲載は平成２２年７月からなので数値上の比較はできないが、昨年度より検索件数や検索人数は少なくなっていると思われる。

訪問記録検索件数	平成２１年１０月～平成２２年１２月	３８４件
検索学生人数	平成２１年１０月～平成２２年１２月	７３名

現４回生の在籍数は５９１名で、就職希望者率を８０％とすると、就職希望者は在籍５９１名×８０％で４７３名となり、就職希望者の５１％の学生が企業訪問記録を検索したことになる。
企業訪問記録の検索で、検索件数は学生が同一企業を検索した場合、最初に検索した月に件数を加算し、学生人数は最初に検索した月の人数を合計している。従って人数のグラフでは、最初に検索した月に人数が加算されるので右下がりになる。

（平成２３年１２月２６日現在）





Ⅱ　企業訪問活動の役割と成果

１．企業訪問活動の役割

前述の学生支援推進プログラムの中で企業訪問活動の役割は、就職先を開拓し企業の情報を提供することで、次の通りである。

①本学の就職システムに蓄積している企業を訪問し、企業との関係を深め募集に関する情報を収集し、本学に対する求人票の獲得を図る。

②４回生の就職活動を支援すべく求人先の新規開拓を行う。

③就職サイトには掲載していない企業の特徴や人事担当者のコメントなど、実際の訪問によって得られる情報を学生に提供し、企業の現状や考え方を知らせて、就職活動の成功に繋げる。

④企業の現状等についてキャリアセンターの運営委員や職員との意見交換を行い、企業や学生の現状を把握し就職活動支援の強化を図る。

２．企業訪問活動の実績

（１）訪問活動の方針

平成２２年度は、次の企業を中心に企業訪問活動を行った。

・活動地域　－大阪府を中心とした、奈良県、兵庫県、京都府の優良企業。
　　－大阪府では優良企業の多い地元の東大阪市を重視。

・企業規模　－経営が安定している中堅中小企業。
　　－業績安定、福利厚生が充実の大企業の子会社。

・参与個々の訪問対象業種
　　－繊維、食糧食品を中心に比較的幅広く訪問。
　　－学生の希望者が出やすい卸売業、内定者の多い小売業、給食系や情報系などのサービス業、女子の採用人数そのものは少ないが事務系の採用が多い従業員数３００人～４００人の製造業が中心。
　　－サービス業では、給食系とともに、文系の女子学生も技術職として挑戦できる職種もある情報系も重視。
　　－食物栄養学科、心理学科、被服学科化粧専攻、インテリアの学科要請企業。

・職　　種　－学生からの希望者の多い事務系、内定者が多いアパレル系販売系及び学科特性を生かせる専門職（栄養士、ＰＳＷなど）。

・そ の 他　－個人で繋がりのある企業。

平成２３年度は、平成２２年度方針をベースにし、さらに新規の企業開拓、企業との関係強化を図るための既訪問先への再訪問などを行っている。

（２）企業訪問活動の状況

①企業訪問実績

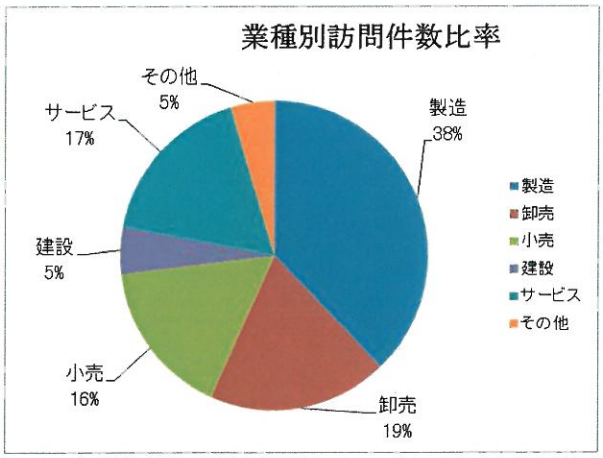
平成２１年９月から企業訪問活動を行うと共に、関西学生就職指導研究会の求人先企業や新卒者用としてハローワークに出されている求人先企業へも訪問活動を行っている。年度別の訪問件数等は、表１の通りである。訪問件数は、同じ企業を再訪問した回数も含まれる。訪問した企業数は１，１２１社であり、そのうち新規就職先開拓は平成２１年度は不明であるが、平成２２年度が９６社、平成２３年度が８０社で合計１７６社となり、新規就職先開拓の効果があった。

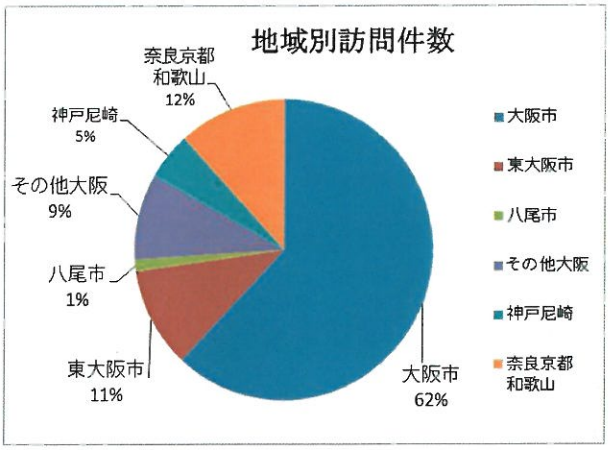
「ＳＨＯＩＮしごとナビ」への企業訪問記録の掲載の更新回数が８３７回となり、掲載社数は７５２社になっている。求人票を見るだけではなく企業訪問記録も見ることによって、企業の情報や試験の内容、求める人材などが把握でき、就職活動に役に立つと思われる。

表１　企業訪問件数

期間	訪問件数	月平均訪問件数	訪問記録数	しごとナビ掲載回数
平成２１年度（９月～翌年３月）	354	51	0	0
平成２２年度（４月～翌年３月）	628	52	504	449
平成２３年度（４月～１２月現在）	476	60	407	388
合　　計	1,458	54	911	837

平成２２年度と平成２３年度の訪問件数１，１０４件の業種別件数の比率、及び地域別件数の比率は、次の通りである。





②訪問先の中の求人票受領先と内定先の件数

平成２２年度及び平成２３年度（１２月２６日現在）の求人票受領先・内定先の件数及び訪問先の中の求人票受領先・内定先件数は、表２の通りである。内定先件数は、内定先の企業数であるが、全内定者数は平成２２年度が４６９名、平成

２３年度が２２７名であり、訪問先への内定者数は、平成２２年度が５３名、平成２３年度が４４名である。本学に対する求人票の獲得と共に、内定の獲得に大きな成果があった。

表２　訪問先企業の中の求人票受領及び内定の件数

期間	全求人票受領件数	訪問先での求人件数	全内定件数	訪問先での内定件数
平成２２年度（４月～翌年３月）	1,899	375	438	48
平成２３年度（４月～１２月現在）	1,874	274	215	41
合　　計	3,773	649	653	89

③その他の実績

インターンシップ参加学生の就職内定率は、全体の内定率よりも１０％以上高い（インターンシップ参加者９２．０％、全体７９．５％、平成２２年卒、学芸学部）。やはり社会での体験が就職活動にも良い影響を及ぼすと思われ、今後もインターンシップを増加していきたい。企業訪問活動の中でも平成２３年４月からインターンシップ受け入れの依頼を行っており、現在までに受け入れ可能の企業が２５社となっている。今後はインターンシップを増加させる環境を作っていく。

学内企業セミナーは、昨年までは年に一度の開催であったが、今年度はもう一度来年２月に開催する予定である。また既に数社の個別の企業セミナーを行っているが、今後も個別企業セミナーも増やしていきたい。インターンシップ同様、訪問活動の中でも企業セミナーの勧誘を行っており、企業セミナー可能の企業が６９社となっている。すでにこの中の数社が合同セミナーや個別セミナーへの参加を得ており学内企業セミナー開催に貢献している。平成２３年１２月に実施した企業セミナーのアンケートによると９５％以上の学生が満足と回答している。

３．今後の企業訪問活動

今後の企業訪問活動としては、前記「１．企業訪問活動の役割」の①から④の求人票の獲得、就職先の新規獲得、企業情報の収集、情報の交換等に加えて、次の活動の検討を行う。

①個々の募集企業についての学生への企業説明会を実施する

学生にとっては、企業の内容や仕事の内容は分かりにくい。訪問担当者は、企業を訪問する時は予め企業内容を調査し、実際に訪問し人事担当者に面会して、企業の状況を把握している。訪問先企業で、樟蔭の学生を多く採用している等の重要な企業から求人票を受領した場合、学生から応募者を募り、訪問担当者により企業内容や仕事内容等についての個別の企業説明会を実施する。

②現在までに訪問した企業で重要な企業を選出し樟蔭との関係の深化を図る

樟蔭の学生を多く採用してくれている企業や経営者や管理者の親族等に学園の卒業者がいる企業など、樟蔭に好意的な企業も多い。現在までに訪問した企業の中で、そのような重要な企業を選出し、定期訪問等の日常の対応のあり方、求人票を受領した時の学生の募集やキャリアセンターの対応方法等の検討を行い、企業との関係の深化を図り、学校推薦枠の拡大と就職活動の支援を行う。

③企業との共同研究や共同開発の促進を図る

共同研究や共同開発先からの求人票の獲得のみではなく、産学連携として企業との共同研究や共同開発をする事により、学生に実学的な教育が施せる。また産学連携の成功を重ねる事により、本学の知名度も向上し大学の発展に寄与するとともに社会への貢献にも繋がる。

Ⅲ　キャリアカウンセラーによる就職活動支援の実績

平成２２年度からキャリア形成についての有識者であるキャリアカウンセラーを学内に招き、全予約制で就職活動のためのカウンセリングを行っている。平成２２年度と平成２３年度の受講者は次の通りである。

平成２２年度　３回生　４５２件
　　４回生　１７８件

平成２３年度　３回生　５０６件
　　４回生　１９６件

平成２３年度は、平成２２年度に比べキャリアカウンセラーの来校日を増やし、さらにきめ細やかなサポートができる体制を強化した。４回生に関しては、内定がもらえるまで繰り返し個人面談を受けられる制度にし、各就職試験先を想定した模擬面談など学生の相談ニーズに合せた対応を行うようにした。３回生の就職希望者には、１１月から１２月にかけて全員にカウンセラーとの個人面談の場を設けている。平成２３年度は、この面談時に履歴書の提出を義務付け、書き方等に対してもアドバイスを行っている。面談を受けた学生からは、就職活動に対する不安を払拭することができ、「前に進んで行けそうだ」という声や、「履歴書を書き直し、自己分析を深めます」などの前向きな声を多く聞くことが出来ており、個人面談を繰り返し受ける学生も増加してキャリアカウンセリングの効果が出ている。現在、就職試験の一部に多く取り入れられている集団模擬面接、模擬グループディスカッションにおいても、上記有識者に面接・試験官を依頼して２月～３月に随時実施する予定である。